

タクラマカン砂漠西域南路大走破12日間

2012年5月5日(土)～5月16日(水) 添乗員:早坂

5月5日(土) 新千歳→北京→ウルムチ

新千歳空港より中国国際航空(CA)にて北京首都国際空港へ。
4年前の北京オリンピックに合わせて新築、拡張された空港ビルはまさしく“巨大”。
ガイドの魏氏にミーティング、夕食後、国内便でウルムチへ。

5月6日(日) ウルムチ→トルファン ☀️/🌧️

ウルムチからトルファンの観光へ。カレーズパラダイス、交河故城、高昌故城、アスターナ古墳、ベゼクリク千仏洞、火焰山など。夕食時、民族舞踊鑑賞。



ベゼクリク千仏洞

5月7日(月) トルファン→コルラ 🌧️

トルファンからコルラへ向かう。途中、庫米什鎮(クミシュ)にて昼食(うどん)。コルラは大都会だ。ホテル向かいの中国銀行ATMでは、中国元のキャッシュを引き出すことができる。夕刻、広場の屋台街を散策。本場のウイグル料理を楽しむ。



庫米什鎮(クミシュ)の食堂



コルラの屋台で

5月8日(火) コルラ→チャルクリク ♣

“さまよえる湖”で知られるロプノールの街を通り、“三十四団”という場所で昼食。
夕刻、チャルクリク、楼蘭賓館に到着。



チャルクリク手前の道路

5月9日(水) チャルクリク 🍀

ミーラン故城遺跡の観光後、ミーランの街で昼食と散策。

午後、チャルクリク博物館へ。素晴らしく見応えがあるので、特に多数のミイラが安置されていて驚きの連続。



ミーラン故城遺跡



チャルクリクの中心街

この写真に写っているように中国では今“電気自転車”が大流行しています。外見はまさしく日本の原付(スクーター)、動力は電気モーター。家庭用電源で充電するそうです。大流行の一番の理由は、「免許とナンバープレートが不要」ということ。そして価格が安いことらしいです。女性や子供も運転しています。しかし、発売当初は国内バイクメーカーの激しい抵抗があったそうです。

5月10日(木) チャルクリク→チャルチャン ♣️ → ☂️ → ☀️

チャルクリクよりバツシャール村へ。

昼ころ、砂丘に囲まれた道路の真ん中で、バスの右側後輪のタイヤ表面が剥離した。修理のため40分停車。ドライバーはさすがに慣れているようで、淡々とスペアタイヤに交換。その手際の良さに感嘆した。

チャルチャン、玉珠寶館に到着。チャルチャン博物館、地主莊園を見学。その後、バザール見物。



バツシャール村のローティ屋台



チャルチャンのバザール

5月11日(金) チャルチャン→ニヤ(民豊) ♣️/☀️

シャルチャンを出発、三十九団付近から胡楊林が目立つようになってくる。安迪尔川の橋を渡りニヤで昼食。
午後、民家訪問、バザール見物など。



道端で解体した肉を売る



噂の胡楊林

5月12日(土) ニヤ(民豊)→ホータン(和田) ☀️/🌸

ニヤを出発、キリヤ河を渡る。ジーア JIYA のシルク工場を見学し、ホータン博物館、そしてマリカワト故城へ。ホータンは玉(ぎょく)の町だ。大小さまざまな玉ショップが立ち並ぶ。



ジーアのシルク工場



マリカワト故城のロバ車

5月13日(日) ホータン(和田)→ヤルカンド(莎車)→カシュガル(喀什) ♣

ホータンを出発、カグリク、ポスカンを通過。午後、ヤルカンドに到着。莎車王陵ではちょうど礼拝の時刻、夥しい人数のウイグル人たち。夕刻、インギサール(英吉沙)の小刀工場。

19:00 カシュガル。個の街もその変わりようは目を見張るものがある。立ち並ぶビル群。昔の面影は無い。



礼拝を終えた人々(莎車王陵)



インギサール(英吉沙)の小刀

5月14日(月) カシュガル(カラクリ湖) ☁️/☀️/☔️

カラクリ湖への日帰り観光へ。ブロンコル湖では、キルギス族のみやげ店が並ぶ。

カラクリ湖(3575m)に到着。ムスターグアタが見えた！復路はコングール峰の綺麗な氷河が三本見える。



カラクリ湖とムスターグアタ



コングール峰の氷河



コングール峰



鉄分が多いので山肌が赤い

5月15日(火) カシュガル➡️ウルムチ➡️北京 5月16日(水) 北京➡️新千歳

カシュガル市内観光。エイティガール寺院、職人街、香妃墓、バザールなど。



エイティガール寺院



香妃墓